2 学期の目標 「本気で」「自分からあいさつ」「家族に感謝を」

●ここでみなさんの今後にむけて、2 学期に努力してほしいことをいいます。

1つ目は、「本気」です。

●「これまでの自分とこれからの自分をふりかえって」「昨日より成長した自分を創っていくために」どうしたらいいでしょうか。「本気」について考えてみてください。**「今、本気で何かにチャレンジしている人はどれぐらいいますか？」**「本気なったら変わります。自分も周りも本気でやってみようと気づいた時がスタートです。」「本気になったら、人は必ず成長します」「学校でも、家でも本気を出して学んだり、遊んだりしてほしい。」「呼ばれたときの返事や授業中の音読の時も本気で声を出してほしい」「声は鍛えないと、声量は急には大きくなりません。」「本気であいさつする。」すべて本気になることはできませんが、何でもいいですから本気で打ち込めることを1つ決めて、チャレンジしてください。きっと、何かが変わりはじめると思います。

2 つ目は、「あいさつ」です。

●校門で、毎日、あいさつ運動を続けています。遠くからでも**自分から進んであいさつをしてくれる人**が正直、多いとはいえません。ずっと前から、どうしたらよくなるか考えていました。終業式の 3 日前の朝、「**今日は、自分（校長）からのあいさつは控えて、相手からのあいさつを待ってから返そう**」としたことがありました。そうしたら、おじぎだけする人、素通りする人、声をかけても返事が返ってこない人、目と目があって「あっ」おはようございますという人などいろいろでした。校長先生だけはなく、朝、**出逢う地域の方々、バスの運転手、登校見守りをして下さっている方、警察の方、警備員さん、出逢った先生方、学校に来られるお客さん**にも、しっかりと、自分からあいさつできるようになってほしいです。

「目を見つつ あいさつしよう 自分から 他人（ひと）より先に 気持ちを込めて」

●**あいさつは、高校生になっても社会人になっても、とても大事なコミュニケーションのスキル**です。名前を呼ばれたときの**「返事」**、「音読の時の声の大きさ」「ハッキリと堂々と話せるように」。少しずつ努力をしてきましょう。9 年生は高校受験で面接が必要になる場合があります。毎日、毎月、毎年の積み重ねです。

3つ目は「家族への感謝」です。

●今年 4 月 25 日に父が亡くなりました。89 歳でした。栗や畑など、父が力を入れていた作業をするときに、ふと、「ああ、もういないんやったなー」と突然、寂しく感じるときがあります。

●今、校長室前に「銀寄」栗を並べています。秋の風物詩でもある栗。その名が生まれたのは江戸中期。大飢饉のさなかに出荷され、多くの銀札（当時のお金）を呼び寄せて村を救いました。その出来事から「銀札を寄せる＝銀寄」の名がつけられたそうです。

●数年前の大きな台風でわが家の栗の古木がたくさん折れて、父は大変ショックを受けて落ち込んでいました。その冬から数年かけて、栗の木をチェーンソーでカットバックし、背の低い木に剪定し、枝を横に伸ばし、挿し木、幼木を植樹して育ててきました。昨年あたりから枝ぶりがよくなり、ようやく今年は、栗がよく実っています。「桃栗 3 年、柿 8 年」とはよく言ったものです。

●先日、栗拾いをしているときに、「親父！よくやってくれたな。7年前の台風で栗の木がバキバキに折れたけど、今年はこれだけの栗がよう取れるようになったわ。ほんま。親父がいろいろと手入れしてくれたおかげやわ。」「ありがとう」「栗拾いがんばるわー。」という言葉が自然に出てきました。大きな栗の木の下で、こみ上げる感情が抑えきれなくなって、胸が熱くなりました。栗を拾い、虫くりを選別し、汚れた栗を布でふき、重さをはかり、ネットに入れたり箱詰めしたりする作業。ずっと、親父がしてくれていました。**実際、自分がやってみて初めて、その苦労が身に染みてわかります。**

●2 学期、みなさんも、**今できることを考えて行動にうつし、少しでも家族の役に立つこと**を実践してほしいと願っています。校長先生は、この年になって今、このことに気がつきました。畑づくり、栗拾い、山仕事、庭掃除など、少しずつ行動に移しています。父がこれまで家族にしてくれたことを常に思い返して、感謝しながら生きていこうと思っています。